

会議結果報告書

令和6年12月25日

会議の名称	令和6年度 第1回舞鶴市総合計画審議会	
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 附属機関 <input type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和6年12月18日(水) 10時00分～11時50分	
開催場所	舞鶴赤れんがパーク 市政記念館ホール	
出席者	別紙のとおり	
議題	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 委員紹介 4. 議事 (1) 第7次舞鶴市総合計画・後期実行計画の取組について (2) 意見交換	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	4名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙の議事録のとおり	
会議録の 作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		

担当課	舞鶴市政策推進部企画政策課 TEL 66-1042
-----	------------------------------

舞鶴市総合計画審議会 委員名簿（敬称略）

委嘱期間：令和5年4月1日～令和9年3月31日

	区分	所属	役職	氏名	出欠
委員長	学識経験者	舞鶴工業高等専門学校	校長	林 康裕	出席
	学識経験者	京都職業能力開発短期大学校	校長	中部 主敬	欠席
副委員長	経済	舞鶴商工会議所	会頭	小西 剛	出席
	観光	京都府北部地域連携都市圏振興社	舞鶴地域本部長	植本 浩明	出席
	住民（地域）	舞鶴自治連・区長連協議会	会長	福本 清	出席
	住民（若者）	舞鶴青年会議所	理事長	山田 龍	欠席
	住民（女性）	NPO法人まいづるネットワークの会	副理事長	上野 和美	出席
	住民（まち）	NPO法人まちづくりサポートクラブ	副代表理事	嵯峨根 俊文	出席
	福祉	舞鶴市社会福祉協議会	会長	荻野 隆三	出席
	福祉	社会福祉法人大樹会	理事・施設長	大橋 裕子	出席
	子育て	舞鶴市PTA連絡協議会	会長	曾根 章嘉	出席
	教育機関	舞鶴医療センター附属看護学校	教員	山口 綾	出席
	スポーツ	舞鶴市スポーツ協会	会長	渡辺 弘	出席
	文化	舞鶴市文化協会	副会長	田中 美香子	出席
	環境	まいづる環境市民会議	顧問	尾上 亮介	欠席
	金融	(株) 京都銀行東舞鶴支店	東舞鶴支店長	川井 啓	出席
	金融	京都北都信用金庫	東舞鶴中央支店長代理	左近 美絵	欠席
	交通	京都交通株式会社	課長	福井 尚朋	欠席
	行政	近畿財務局舞鶴出張所	所長	田中 陽	出席
言論	FMまいづる	ジェネラルマネージャー	時岡 浩二	出席	

委員 20名 うち出席者 15名

区分	所属	役職	氏名	出欠
オブザーバー	京都府中丹広域振興局	企画・連携推進課長	福井 あゆみ	出席
オブザーバー	京都府港湾局	港湾企画課長	吉岡 浩昭	出席

令和6年度舞鶴市総合計画審議会
議事録（概要）

開催日時：令和6年12月18日（水）10時00分～11時50分

開催場所：舞鶴赤れんがパーク 市政記念館ホール

出席者：別紙委員名簿のとおり

事務局：舞鶴市政策推進部政策推進室企画政策課

【次第】

1. 開会

2. 市長あいさつ（要旨）

- 本審議会は、市政運営の最上位計画に位置付ける総合計画に関する諮問機関として、これまで皆様には計画策定や進行管理について貴重なご意見を頂戴してきたところである。
- こうした中、第7次舞鶴市総合計画・後期実行計画を昨年7月に策定して早1年半が経過した。人口減少や担い手不足など、地方都市を取り巻く課題は深刻化しており、子育て環境の充実や地域経済の活性化を織り込んだ総合計画の取組を進めることで、「未来に希望がもてる活力あるまち・舞鶴」を実現する。
- 本日の審議会では、後期実行計画の進捗状況や、今後重点的に取り組む施策などについて、市から説明するので、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、今後の市政運営に反映していきたいと考えている。

3. 委員紹介

4. 議事（舞鶴工業高等専門学校 校長 林 康裕委員長による進行）

（1）第7次舞鶴市総合計画・後期実行計画の取組等について

市長から説明

（2）意見交換

意見交換の内容

《京都府北部地域連携都市圏振興社 植本委員》

- 赤れんがパークの来場者数は増加しており、中丹地域では断トツだが、京丹後や宮津など丹後地域の方が集客力が高い。そのため、海の京都エリアとの連携を深めていくことが重要。
- 総合計画において観光施策に取り組んでいるが、総合計画をも

とにした具体的な観光計画についてお聞きしたい。

- また、西舞鶴駅は新しくバス停が整備され、JR、丹鉄、バスなど3社が乗り入れるターミナルとなる。現在天橋立周辺の宿泊施設の高騰により西舞鶴に宿泊するインバウンド客が増えているが、舞鶴観光をせず丹鉄で天橋立に行ってしまう。そういったインバウンド客に対して、西舞鶴をどのように観光してもらうか考えをお聞きしたい。

《市長》

- 観光も戦略的に取り組んでいく必要があることから、計画の策定を検討しながら進めたい。
- 舞鶴市としてインバウンドに対してしっかり取り組まなければならないと考えている。12月定例会の中で、インバウンド対策を含めた取組の補正予算をご審議していただいている。また、舞鶴のインバウンド客の7割は中華圏となっており、特に台湾に対してはプロモーションを行っていききたい。他方、公共交通のキャッシュレスが課題。インバウンド客から直接、キャッシュレス対応しておらず不便だと聞いている。キャッシュレス対応は交通事業者の判断が必要だが、行政として寄り添えることがないか引き続き対話していききたい。
- 西舞鶴に宿泊するインバウンド客に対する西舞鶴の周遊誘導は課題であり、皆さんと対話しながら考えていききたい。

《舞鶴工業高等専門学校 林委員長》

- 京都市内にはインバウンド客が非常に多く、舞鶴にも誘客できないかと思う。インバウンド客が簡単に高速バスを使える予約システムがあればよいのではないかな。

《NPO 法人まいづるネットワークの会 上野委員》

- 親は小学校や中学校の給食無償化を切望していた。昨今物価高だが、親はこどもの食費の節約は望まない。また、ご飯が食べられない貧困家庭もある。このような中、学校で給食が無償で提供されることは親にとって安心。高齢者からは、こども施策ばかりだと不満も聞くが、介護業務のデジタル化の取組なども進んでおり、バランスの取れた政策を行っているという印象を受けた。
- 市長プレゼン資料に記載の市職員の採用パンフレットは女性が少なく、女性が活躍できないとの誤解を与える。また、事務局である企画政策課にも女性がおらず、政策部門の部署にも女

性の登用をしてほしい。

《市長》

- プレゼン資料に記載の採用パンフレットは一部抜粋したもので、実際の採用パンフレットには女性が多く登場する。実際に、現在女性の採用者数は多い。また、女性の管理職の登用を進めているが、過去には畑違いの部署へ配置された職員が、重圧もあり活躍できなかったケースがあった。女性の数を増やすということだけでなく、そういった点を配慮しながら、やる気と能力のある職員を男女区別なく登用していきたい。
- 学校給食については、所得制限なしで無償化を実施。舞鶴から市外の中学校に通学している生徒や市内の公立中学校に通っているがアレルギー等で給食を食べていない生徒などには相当額を支給するなど、舞鶴市内全てのこどもが対象。また、無償化による給食の質の低下を懸念される方もいるが、質の低下はさせない。他にも、今後は舞鶴産の食べ物を充実させていく考え。

《舞鶴自治連・区長連協議会 福本委員》

- 部活動の地域移行に関して、専門的な指導者のもとで中学生がいきいきと練習に励んでいる。他方、保護者による送迎が課題。他にも、本格的な地域移行のためには、指導者への謝礼を確保する必要があり、こども達の受益者負担について検討が必要。

《市長》

- 中学校によって部活動の数が異なり、加佐中学校では6種類に対し、白糸中学校では17種類。地域によって選択肢が狭まるのが問題。部活動の地域移行により、住んでいる地域に関わらず、こども達がやりたいことに取り組むチャンスを提供できる。
- 移動手段に関して、小学生が習い事をする際、保護者が送迎しており、中学生においてもその延長と考えている。他方、舞鶴市全体で地域部活を行っていくためには、場所によって移動手段の整理が必要。
- 指導者には国からの謝礼金があるが、今後も継続するよう、国に対して要望していく。一方で、受益者負担については、整理が必要。

《舞鶴市PTA連絡協議会 曾根委員》

- 親世代が過ごしてきた学生時代から大きく変化しており、学校給食の無償化や部活動の地域移行などについて、親に情報を届けることが重要。先般、中学校部活動の地域移行にかかる説明会があったが、今後も対話の機会を積極的に設けてほしい。また、保護者アプリのコドモンなどのツールも積極的に活用し、欠席した親にも情報が届くよう対応してほしい。

《市長》

- 保護者や指導者向けに部活動の地域移行にかかる説明会を実施したが、先生が忙しいから地域に部活を丸投げするといった認識を持つ方もおり、今後も市民の理解を得られるよう努めていきたい。説明会で撮影したビデオや資料を公開しているが、コドモンを活用した情報発信など、親が情報に触れられるよう取り組んでいく。

《舞鶴工業高等専門学校 林委員長》

- 市の情報発信のツールはどのようなものがあるか。

《市長》

- 従来はプレス発表が大きな役割を担っていたが、現在は、自前による広報に注力。HP、SNS (X、Facebook、Instagram)、公式LINE などの広報媒体を使って情報発信。従来は記者のみ公開していた市長定例会見についても、5日後までを目途に公式Youtube にアップ。

《FM まいづる 時岡委員》

- 高浜町と舞鶴市の間で観光と原子力防災の観点で連携が深まることを期待。
- 五老ヶ岳公園には中華圏のインバウンド客が増加。団体観光バスのほか、小さいマイクロバスやレンタカーなど少人数で来訪する富裕層の方もいる。インバウンド戦略として、富裕層向けサービスの研究が必要。また、インバウンド客から眺望と自然の景観を評価いただいております、インバウンド向けに五老スカイタワーをPR してほしい。
- 旧かんぼの宿の跡地の活用と五老スカイタワーの駐車場やカフェのキャパシティは課題。団体観光に対応するにはキャパシティが不足。

《市長》

- 昨年、高浜町とは観光分野をはじめ地域活性化に向けたアクションプランを連携して策定した。特に、水産分野では今後さらに協力を進めたい。
- 昨年からクルーズ船の寄港が復活。乗船客の富裕層の関心ポイントは研究中であるが、現時点で自然、食、文化や人に関心があることは判明している。
- 五老ヶ岳公園については、様々な機会に近畿百景第一位であることをPRしている。重要な観光拠点であり、来訪者数増加に努めていく。また、観光的な視点で運営できるよう、市役所の所管含め考えていきたい。

《舞鶴医療センター附属看護学校 山口委員》

- 後期実行計画の令和5年度実績をみると、「将来の夢や目標を持っている中学生3年生」の割合が少ないが、看護師を目指す学生も同様の傾向であり、入学の動機が明確でない場合も多い。また、学生が看護師として勤務する病院を選ぶ決め手となるのは、教育体制等ではなく、職場の雰囲気やスタッフとの交流となっている。そのため、若い世代に舞鶴で働いてもらうには、舞鶴の職場を見学する機会を設けることが重要であると考えられる。
- また、地域で過ごす療養者も増加している中、1年生のカリキュラムにおいて地域で過ごす療養者支援の科目ができるなど、病院で働く看護師だけを育成する状況ではない。学生に訪問看護師による地域の療養者への訪問現場を見せることで、舞鶴の訪問看護師のなり手を増やすことが必要。

《市長》

- 看護師不足は大きな問題。昨年も今年も将来看護師を目指す子ども達に市長講話をさせていただいた。また、毎年、府立医科大学の学生に舞鶴で働く意義を伝えている。看護師に限らず、子ども達が舞鶴にどのような仕事があるのか知ることのできる環境は重要であり、昨年からまいづるグッドカンパニーの取組を開始。これは、子ども達が普段見られない職場を見学し、会社の従業員がどういった思いで働いているのか聞くことができる取組。即効性のある取組ではないが、ある学生がこの取組を通して訪問した会社に就職した事例もある。高校生が大学進学を機に帰ってこないことが、人口減少の大きな要因であり、この取組は強化していきたい。義務教育の段階から子ども達には舞鶴で働きたいと思ってもらえるよう取り組んでいく。

《社会福祉法人大樹会 大橋委員》

- 最近の新聞で、国がインドネシアからの福祉人材を確保するとの記事に接した。舞鶴市でも YMCA で介護人材を育成しているが、年々生徒数が減少している上、（学生が舞鶴市の修学資金制度を活用する場合、舞鶴市の事業所で3年間勤務すれば入学金と授業料が返済免除となるため、）就職しても半数は3年で舞鶴を離れている。舞鶴市では慢性的に人材不足となっており、ほとんどの舞鶴の事業所は特定技能または技能実習生を受け入れている。それぞれの事業所は、住居手配など外国人材受入のため、様々な労力と金銭的な負担がある。外国人に頼らなければならない現状に鑑み、外国人材に対する補助金など出してほしい。
- デイサービスを2か所運営しているが、市の指定管理のデイサービス施設について、舞鶴市に修繕を依頼してもすぐに対応いただけない。舞鶴市からは入札が必要なのでどうしても時間がかかってしまうなどと言われるが、早期の対応を心掛けてほしい。

《市長》

- ウズベキスタン共和国からポリテクカレッジに毎年3名ずつ留学しているが、卒業後は舞鶴市内で就業している。外国人材の必要性は感じており、外国人材の確保や支援の在り方などについて研究している。
- 公平公正の観点から、入札が必要となるものがあるが、スピード感も必要。修繕については早期に対応できるよう努める。

《近畿財務局舞鶴出張所 田中委員》

- 観光分野について、「atick」のオープンをはじめ、赤れんがパークを中心とした賑わいの創出が進展していると感じる。
- 活用できていない国有財産として、舞鶴高専裏手にある旧海軍第三火薬廠や湾内に浮かぶ蛇島などがある。長期スパンの話になるが、今後活用を検討いただき、舞鶴の魅力を高めることにつなげたい。

《市長》

- 市内に数多くある旧軍財産について、広報まいづる12月のトップページで特集を組んだ。第三火薬廠や蛇島、建部山・槇山頂上の砲台跡などある。100年以上手つかずであったが、今年

度、文化振興課に近代化遺産係を設置し、活用保存計画を来年度までに策定予定。こうした特有の財産を活用することは、観光誘客につながるとともに、歴史文化を後世に残していく観点においても重要。

《舞鶴商工会議所 小西副委員長》

- 政府は災害発生時の支援体制を強化する動きがある。舞鶴は日本海側の中央部に位置し、太平洋側に対するリダンダンシー機能もある上、高速道路整備により京阪神との距離も近くなった。さらに、天然の良港がある上、海上自衛隊と海上保安庁があることが強み。先般にはアイリスオーヤマとも防災協定を締結。これらを踏まえると、舞鶴市は災害支援基地としての役割を担うのに適しており、京都府と連携して、国へ働きかけを行ってほしい。
- カナデビアの大阪工場では、メタネーション実験が行われている。また、舞鶴火力発電所では、NEDOが貯蔵した液化CO₂を苫小牧まで輸送する実証実験が行われている。さらに、原発の余剰電力の活用も検討できる。新しいエネルギーを創る産業都市または受け入れる都市としての方向性も検討していただきたい。

《市長》

- 京都府に対しては、防災機能強化の要望を行っている。また、先般実施された知事との意見交換会においても、本件を中心に意見交換した。能登半島地震では海上自衛隊と海上保安庁が所在するまちとして、陸路が絶たれている中、海路でいち早く被災地に物資を届けたが、京都府北部全体で連携するための体制が整っておらず、京都府と舞鶴市の物資だけ届ける形となった。京都舞鶴港はリダンダンシー機能含め防災拠点であるべきだと考えており、様々な方面に働きかけを行っていく。
- 舞鶴火力発電所で世界に先駆けてCCUS技術の実証実験がされることには意義がある。石炭火力発電所を廃止する流れにある中、新産業や新エネルギーについて早い段階から検討していくことは重要だと考えており、経済産業省やエネルギー庁、関西電力などと連携し取り組んでいきたい。

《舞鶴市スポーツ協会 渡辺委員》

- 昨今、市内のスポーツ施設の老朽化が進んでおり、また近隣市町に新しいスポーツ施設ができていることもあり、大きなスポ

ーツ大会を誘致できなくなっている。スポーツ施設は傷みやすいため、市民に安心安全なスポーツ環境を提供するためにも、スポーツ施設を整備いただくよう要望する。

《市長》

- スポーツ施設や学校などは老朽化が激しく、大きな転換期に来ている。様々なスポーツ競技があるが、施設の状態によって100%力を発揮することができない環境は許されず、随時施設の更新が必要。加えて、室内競技の競技団体からは熱中症対策として施設内に空調を付けてほしいとの要望をいただいている。熱中症対策を含め、スポーツ環境を整備していきたいと考えている。

《舞鶴市文化協会 田中委員》

- 来年から吹奏楽部や合唱部も地域移行となる。伝統文化関係者は、高齢化もあるため、こども達に伝統文化を伝えていきたいという強い思いがある。今後、伝統文化の活動も地域移行してほしい。

《市長》

- 今ある部活動だけでなく、こども達が望む活動ができる体制にしたいと考えている。そのためには、受け入れる指導者がとても大事であり、生け花や書道、茶道などの活動に関心のあるこども達の受け皿になっていただけるとは幸甚。本格的な部活動の地域移行に向け、文化振興課や学校教育課と連携し、舞鶴市文化協会の受入体制の構築をお願いしたい。

《舞鶴市社会福祉協議会 荻野委員》

- 少子高齢化や核家族化により増加している一人暮らしの高齢者が地域の中で安心して暮らすためには、地域社会で支え合う体制や関係作りの取組が重要。この点において、社会福祉協議会は大きな役割を担っており、民生児童委員と協力しながら、高齢者のふれあいづくりなど取り組んでいる。一方で、担い手の高齢化問題のほか、女性の社会進出や定年後に働く人の増加に伴う潜在的な担い手の減少問題もある。現在、ボランティアに興味のある方が集えるボラセンカフェを通じて、新規のボランティアを増やす取組を行っているが、行政にも担い手問題に協力いただきたい。

《市長》

- 少子高齢化の中で、ヤングケアやダブルケア、8050問題など複雑化している問題に対しては、来年度から施行する重層的支援体制を通じて、一つ一つ対応していきたい。市としても担い手不足の解消に向けて、地域で助け合う崇高さや理念など伝えていく必要があると考えており、現場の意見をいただきながら、取り組んでいきたい。

《(株) 京都銀行東舞鶴支店 川井委員》

- まいづるグッドカンパニーの取組の話もあったが、市内の起業はとても重要。舞鶴市として、起業に関する施策はどのようなものがあるか。

《市長》

- 若者が活躍できるまちを創るためには、造船をはじめとした技術維持のほか、起業やM&Aが有効。様々な施策を実施しているが、先般は、関西経済連合会と連携し、市内の若手事業者と都市部の企業がマッチングするイベントを実施。地域経済の活性化や魅力的なまちづくりを推進し、UIJターンに選ばれるまちにしたい。
- 起業に対する支援策については、商工会議所や金融機関などから意見を伺いたい。

《舞鶴工業高等専門学校 林委員長》

- 人口減少社会の中では、舞鶴の強みを強化する施策が必要。そのためには、コンパクトシティの実現が不可欠であり、市民のさらなる理解が必要。縮小した社会の中で、将来夢をもてる社会を実現するために、舞鶴市のコンパクトシティについて長期的な展望を見せてほしい。コンパクトシティが多くの方面の課題解決のヒントになると考えている。